

平成 26 年度

行 財政改革プラン

公開

プレゼンテーション資料

No.	時間	テーマ	所管課（室）
-	10:00～ 10:05	概要説明	
1	10:05～ 11:15	東三河広域連合の活用	政策企画課
2	11:25～ 12:35	地域コミュニティによる健康づくりと高齢者支援	健康増進課 長寿介護課
休憩			
3	13:20～ 14:30	ごみ減量に向けて ～ごみ減量化の効果的な手法～	環境政策課
4	14:40～ 15:50	市民参画によるシティプロモーションのあり方	シティプロモーション 推進室

傍聴される皆様へ（お願い）

本日は、お越しいただきありがとうございます。

- プレゼンテーションでは傍聴されている皆様からご意見を伺う時間を設けていますので、意見をお聴かせください。（質問もお受けします。）
（8ページ「3. 公開プレゼンテーションの進め方」「3. 傍聴者からの質疑と意見発表」参照）
- 受付時にお渡しした2種類のアンケート用紙にご意見・ご感想をご記入いただき、お帰りの際は回収箱へ投函してください。
今後の参考とさせていただきますので、ご協力をお願いします。

- プレゼンテーションのスケジュールは、多少前後することがあります。
- 会場への出入りは自由となっておりますが、プレゼンテーションの妨げにならないようお願いします。
- プレゼンテーション中は、お静かに傍聴してください。
- プレゼンテーション中の携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切りください。
- 庁舎内は全面禁煙となっておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。（来庁者喫煙所は庁舎南の屋外となります。）
- 会場内では、プレゼンテーションや傍聴者などに支障のない範囲で写真撮影等を行っていただいても結構です。
- その他プレゼンテーションの支障になるような行為をしないでください。

※これらの事項を守っていただけない場合や、事務局の指示に従っていただけない場合には、退席していただくことがあります。

目 次

1 ページ	1. 豊橋市行財政改革プランの概要
3	2. 豊橋市行財政改革のこれまでのあゆみと成果
6	3. 豊橋市行財政改革プランの進捗管理について
7	4. 公開プレゼンテーションについて
9	5. 公開プレゼンテーション資料
10	1 東三河広域連合の活用 (政策企画課)
18	2 地域コミュニティによる健康づくりと高齢者支援 (健康増進課・長寿介護課)
31	3 ごみ減量に向けて～ごみ減量化の効果的な手法～ (環境政策課)
39	4 市民参画によるシティプロモーションのあり方 (シティプロモーション推進室)

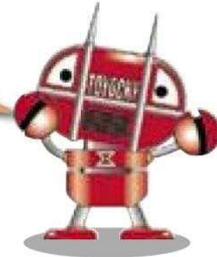
1. 豊橋市行財政改革プランの概要

1.行財政改革プランって何？

どうして、行財政改革が必要なの？



豊橋市は、これまでも行政サービスの向上と行財政運営の効率化に努めてきたんだ。でも、行政需要はますます多岐にわたり、市の財政負担も大きくなってきているんだ。豊橋市ではこうした厳しい状況乗り越えて、「第5次総合計画」によるまちづくりを着実に進めるために行財政改革に取り組む必要があるんだよ。



改革はどのように進めていくの？



今回、初めて部局ごとに具体的な行動計画を作成し、基本方針に沿ってそれぞれの分野で責任を持って取り組む事項を明確にしたよ。毎年、効果目標に対する達成度合いを市役所内部で評価するとともに、外部の専門的な視点からも評価・検証して、目標の達成を目指すんだよ。

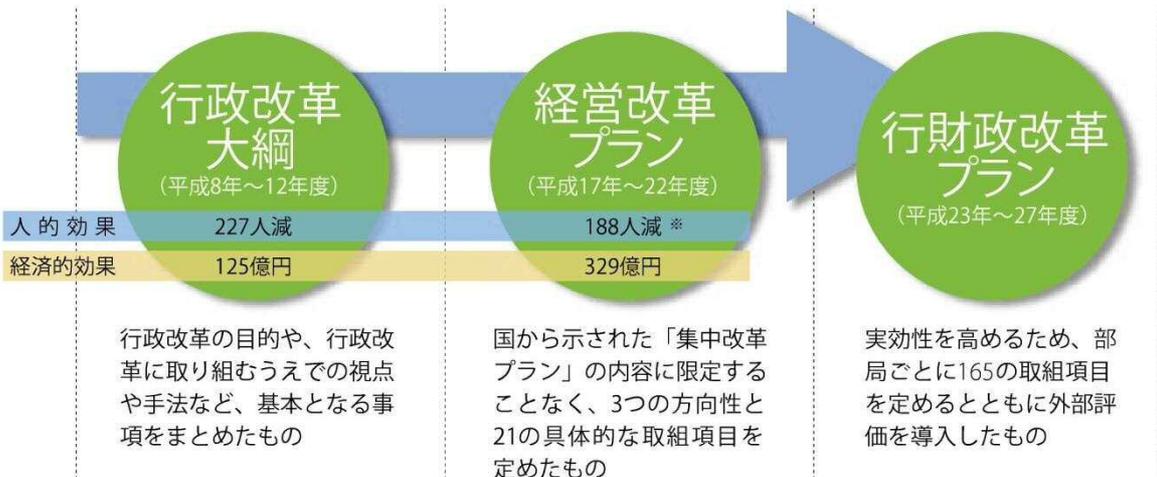
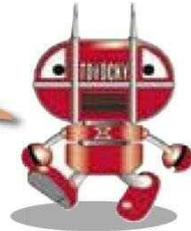


2.行財政改革の歩み (詳細は3～5ページ)

これまでの行財政改革はどんなものがあったの？



平成8年度から12年度までを計画期間とする「行政改革大綱」、17年度から22年度までを計画期間とする「経営改革プラン」を策定し、良質なサービスの提供と効率的・効果的な行財政運営の推進に取り組んできたんだよ。



※ 消防・医療部門（医療職）を除きます。

3.プランの目的 (多様な主体との協働・連携を通じた「豊橋の活力」の向上)

【3つの基本方針、17の重点推進項目、165の取組項目(部局別行動計画)】

基本方針	「自立と責任」の強化に向けた行政体制の整備	財政運営の自律性・健全性の確保
市民等の公益的な地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 市民の自主的・自立的な活動の推進 地域団体等との協働事業の推進 地域資源の発掘と積極的なシティプロモーション活動の推進 など6項目	<ul style="list-style-type: none"> 職員の人材育成と給与等の適正化 政策推進を柱とした組織機構と定員管理の適正化 自治体間の広域連携事業の推進 など5項目	<ul style="list-style-type: none"> 市税の確実な収納と自主財源の確保 受益者負担の原則に立った使用料、手数料等の適正化 将来負担の適正化 など6項目
重点推進項目		
部局別行動計画 <ul style="list-style-type: none"> 文化市民部 <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生事業の参加率向上 福祉部 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活サポーターの充実 健康部 <ul style="list-style-type: none"> 健康のまちづくり事業への参加校区拡大 環境部 <ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの減量 産業部 <ul style="list-style-type: none"> 豊橋産農産物のブランド化促進 建設部 <ul style="list-style-type: none"> 家屋の耐震化の支援 都市計画部 <ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス運行の支援 総合動植物公園部 <ul style="list-style-type: none"> 自然史博物館の案内ボランティアの育成 消防本部 <ul style="list-style-type: none"> 応急手当の指導員や普及員育成 教育部 <ul style="list-style-type: none"> 二川宿本陣資料館の地域との協働に向けた環境づくり はじめ71項目	<ul style="list-style-type: none"> 総務部 <ul style="list-style-type: none"> 職員の給与等の適正化と総人件費の抑制 職員数の適正管理と組織機構の見直し 監査機能など内部統制機能の強化 福祉部 <ul style="list-style-type: none"> 国民健康保険事業の広域化 健康部・消防本部・産業部 <ul style="list-style-type: none"> 東三河地域の医療、消防、産業振興など広域連携の推進 関係部局 <ul style="list-style-type: none"> 危機発生時の体制強化とマニュアル整備など はじめ25項目	<ul style="list-style-type: none"> 関係部局 <ul style="list-style-type: none"> 有料広告掲載、債権の管理など市税の確実な収納と自主財源の確保 使用料、手数料の見直し 事業や補助金・負担金の見直し 財務部 <ul style="list-style-type: none"> 公共施設全般の保全計画策定など将来負担の平準化 市債残高の縮減や繰上償還(借換)の実施 市民病院・上下水道局 <ul style="list-style-type: none"> 病院事業や上下水道事業など地方公営企業の経営健全化など はじめ69項目

4.主な数値目標

指標	基礎数値 (平成22年4月1日現在)	目標 (平成28年4月1日現在)
職員数 (普通会計部門等)	2,224人	2,014人 (210人(9.4%)減)

注：病院事業や上下水道事業を含めた全会計では139人の減員(4.0%減)となります。

指標	目標 (平成23～27年度の累積)
収入・支出の見直しによる経済的効果額	70億円

注：目標額は収入確保策や事業費・人件費の抑制による累積額です。

2. 豊橋市行財政改革のこれまでのあゆみと成果

豊橋市は、財政健全性維持及び行政サービスの質の向上のため、行財政改革に取り組んでまいりました。たとえば、市内保育環境の充実のため、市民の協力のもと公立保育園を増やすことなく、民間保育園の充実を図ってきたこと、施設運営に民間のノウハウを活用する指定管理者制度を導入し、施設利用者の利便性を高めてきたこと、また自治会と市が協働して地域計画を作成するなど市民と行政のパートナーシップの形成に取り組んできたことなど、その時代の要請に合わせるだけでなく、時代を先取りした取り組みを進めてまいりました。以下は、平成8年度からの豊橋市の行財政改革のあゆみと主な成果です。

【行財政改革のあゆみ】

名称	特徴	主な成果
<p>行政改革大綱 (平成8年～12年度)</p>	<p>以下の基本テーマに沿って行政全般にわたる総点検を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民に信頼される行政の推進 2. 市民福祉の一層の向上 3. 時代の変化に柔軟に対応する行政の推進 4. 「地方の時代」にふさわしい自主性と主体性の確立 5. 職員の意識の改革と能力開発 	<p>【人的効果】227人減</p> <p>【経済的効果】125億円</p> <p>【取組項目】143</p>
<p>経営改革プラン (平成17年～22年度)</p>	<p>【目的】 「第4次総合計画を実現し、市民満足度の向上を目指す」</p> <p>【方向性】 (ア) 行財政システム改革の推進 (イ) 効果的・効率的な行政執行体制の確保 (ウ) 市民とのパートナーシップの確立</p>	<p>【人的効果】188人減 (消防・医療部門(医療職)を除く。)</p> <p>【経済的効果】329億円</p> <p>【取組項目】21</p>
<p>行財政改革プラン (平成23年～27年度)</p>	<p>【目的】 多様な主体との協働・連携を通じた「豊橋の活力」の向上</p> <p>【視点】 「地域力」と「行政力」 上記の目的と視点から、3つの基本方針、17の重点推進項目を設定</p>	<p>目標</p> <p>【人的効果】210人減</p> <p>【経済的効果】70億円</p> <p>【取組項目】165</p> <p>23・24年度成果(累積)</p> <p>【経済的効果】22億5千万円</p>

■行政改革大綱（平成8年～12年度）の主な成果

事務・事業の簡素化・効率化の推進

- ・競輪従事員の見直し ▲127人（投票等窓口業務機械化に伴う競輪従業員の削減）

民間委託、嘱託化等の推進 ▲44人

- ・ビンカンボックス回収業務はじめ6業務の委託化
- ・廃棄物投入受付業務はじめ10業務の嘱託化

公営企業経営見直し

- ・上下水道局 ▲128人 ・病院 ▲82人

定員適正管理と給与の適正化

- ・給料表の抜本的見直し

（年功的な要素の強い給与体系から、職務や職責に応じた級区分に変更するとともに、昇給間差額の見直し、高齢職員の給与水準の見直しを図る。）

■経営改革プラン（平成17年～22年度）の主な成果

効果的・効率的な行政執行体制の確保

【民間委託】

- ・豊橋競輪の車券販売・払戻業務、市民病院公務災害請求事務、保健所・保健センター管理運営事業はじめ88業務

【指定管理者制度】

- ・公会堂、職業訓練センター・水の展示館・資源化センター余熱利用施設、こども未来館、市民センター・牟呂地域福祉センター・障害者福祉会館はじめ140施設

市民とのパートナーシップの確立

- ・市制施行100周年記念事業の地域と市の連携（地域事業への職員参加）
- ・市民協働推進条例施行に伴う基金の創設、市民協働推進補助金制度、市民協働提案募集制度の開始
- ・地域の主体的な行動計画を作成するモデル事業の実施、市民協働推進計画の策定

調整手当をはじめとした各種手当の見直し

- ・他都市に先駆け調整手当を10%から8%へ引き下げ

■行財政改革プラン（平成23年～27年度）のこれまでの主な成果

市民等の公益的な地域活動の推進

- ・福祉ボランティア養成講座の開催、地域住民と連携した干潟再生実験プロジェクトの実施、AEDなどを配置した登録事業所など（救命の駅）の拡大、地球温暖化対策に取り組むため、市民、事業者との一体的な取組体制の強化 など

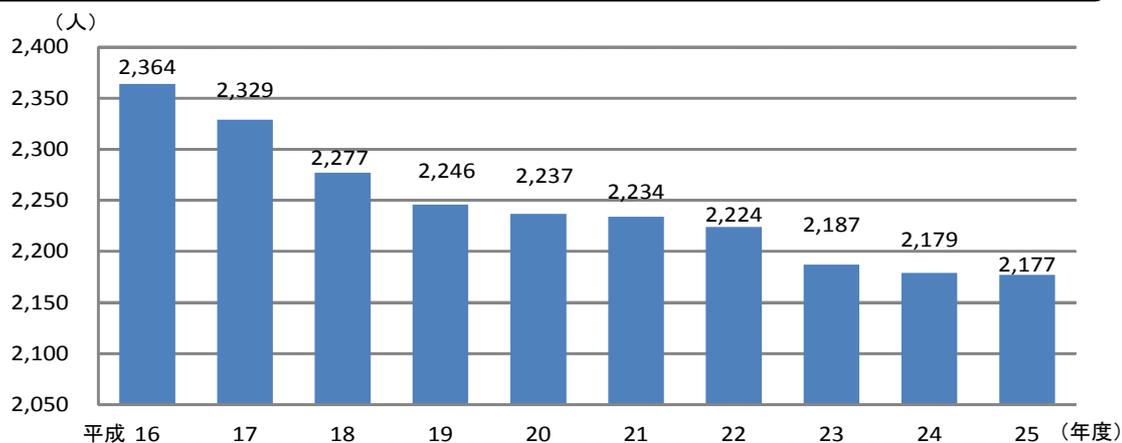
「自立と責任」の強化に向けた行政体制の整備

- ・給料表の引下げを始めとする給与改定の実施
- ・東三河広域協議会事務局の組織体制の充実 など

財政運営の自律性・健全性の確保

- ・職員の給与支給明細書へ有料広告掲載（自主財源の確保）
- ・情報システムの全体最適化の推進 など

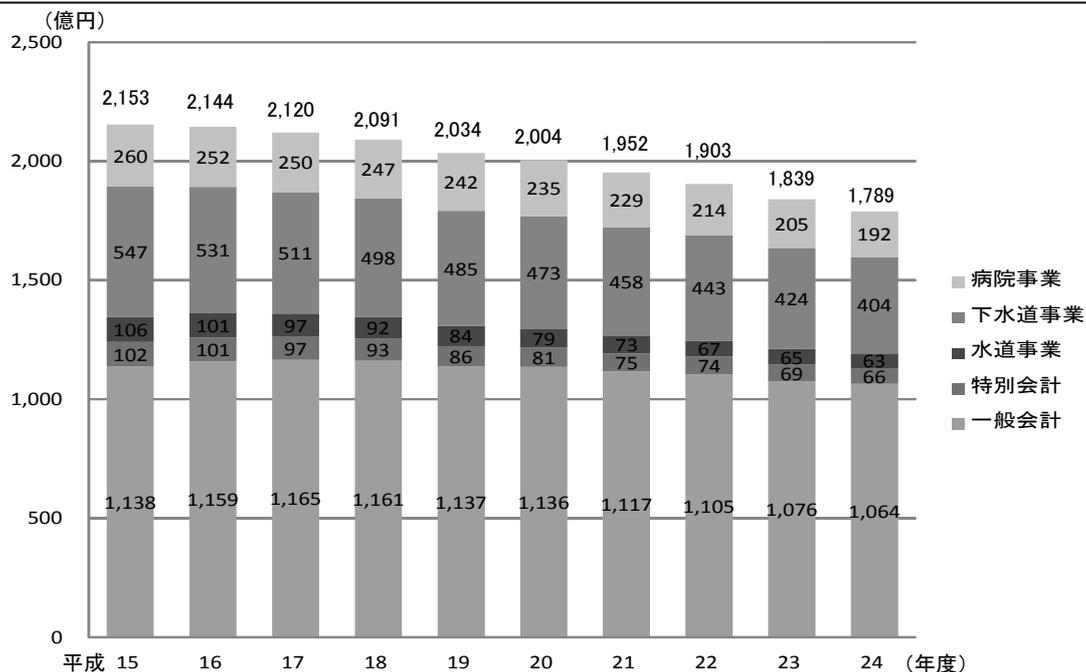
職員数（普通会計部門等）の推移



人口1万人あたりの職員数では豊橋市と同規模の都市（中核市）の中で、少ない方から3番目/42市となっています！



借金（地方債現在高）の推移



借金（地方債残高）を年々減らし、将来の市民負担の抑制を図っています！



3. 豊橋市行財政改革プランの進捗管理について

豊橋市行財政改革プラン（以下「プラン」という。）の実施にあたり、市担当部局による内部評価、豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会（以下「委員会」という。）による書類評価及び公開プレゼンテーションを経る中で得られた評価・検証結果を公表するとともに、部局においては次年度以降に向けての必要な見直しを行い、プランに掲げる目標の達成を目指します。

【評価の流れ】



4. 公開プレゼンテーションについて

1. 公開プレゼンテーションの目的

プランに掲げる部局別行動計画の中から、特に市として積極的に推進しようとする取り組みを取り上げ、本市行政の取り組みを市民に知ってもらうとともに、次期行財政改革プラン策定に向けての課題の掘り起こしと政策推進のための意見を外部の視点から得ることを目的としています。

2. 公開プレゼンテーションテーマ及び日程

プランの部局別行動計画に掲げる165取組項目のうち、委員会による書類評価を実施した103取組を中心に、市民の関心が高いもの、市として積極的に推進しようとする取り組みを4テーマ選定しました。

No.	時間	テーマ	所管課（室）
-	10:00～ 10:05	概要説明	
1	10:05～ 11:15	東三河広域連合の活用	政策企画課
2	11:25～ 12:35	地域コミュニティによる健康づくりと高齢者支援	健康増進課 長寿介護課
休憩			
3	13:20～ 14:30	ごみ減量に向けて ～ごみ減量化の効果的な手法～	環境政策課
4	14:40～ 15:50	市民参画によるシティプロモーションのあり方	シティプロモーション 推進室

3. 公開プレゼンテーションの進め方

1. 所管課による説明（10分）

所管課長から取組の内容（目標、成果、今後の方針）などについて、パワーポイントや資料を用いて説明します。

2. 質疑応答（35分）

所管課からの説明と配付資料を基に、委員から所管課へ質問します。

3. 傍聴者からの質疑と意見発表（20分）

所管課による説明や質疑応答を基に、プランの進捗状況について質問や意見を発表することができます。

4. 代表委員によるまとめ（5分）

1から3までの審議の結果を踏まえ、さらなる改善策や改革に向けた方策について、代表委員がコメントします。

4. 豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会

委員名	役職等
石原 俊彦	関西学院大学大学院教授
世羅 徹	有限責任監査法人トーマツ パートナー
伊藤 眞芳	税理士法人トリプルエー代表社員
大久保 裕美子	とよはし女性フォーラム会員
功刀 由紀子	愛知大学地域政策学部教授
諏訪 一夫	名古屋市立大学大学院特任教授
富田 真知子	有限会社エム・プロダクツ代表
村松 史子	豊橋創造大学短期大学部准教授

5. 公開プレゼンテーション資料

番号	テーマ	ページ
1	東三河広域連合の活用	10
2	地域コミュニティによる健康づくりと高齢者支援	18
3	ごみ減量に向けて ～ごみ減量化の効果的な手法～	31
4	市民参画によるシティプロモーションのあり方	39

【資料の構成】

- ・パワーポイント資料
- ・補足資料（2のみ）

東三河広域連合の活用

平成26年7月12日
 行財政改革プラン公開プレゼンテーション
 豊橋市企画部政策企画課

東三河発展の経緯

年	社会基盤整備
昭和24年	豊川農業水利事業
昭和26年	天竜東三河特定地域の指定
昭和31年	佐久間ダム完成(電源開発)
昭和33年	宇連ダム完成 佐久間導水路、大入頭首工、振草頭首工 (上水道・工業用水を含む総合用水事業化)
昭和39年	東三河工業整備特定地域の指定 三河港の重要港湾指定 農業構造改善事業
昭和43年	豊川用水全面通水
昭和48年	明海産業基地

東三河の規模

項目	規模	補足
人口(H22)	765,687人	政令指定市なみ
就業者数(H22)	396,026人	3次20.8万 2次13.5万
農業産出額(H18)	1,568億円	兵庫県21位/1,462
工業出荷額(H23)	3兆7,310億円	名古屋市9位/34,161
地域内GDP(H23)	2兆7,489億円	徳島県44位/26,540
自動車輸入(H24)	14万台,3千億円	日本第1位

生活圏・経済圏

常住人口(夜間)	昼間人口	昼夜間人口比率
765,687	745,672	97.4%
相手方地域	流出人口	流入人口
岡崎・幸田・西尾	13,040	8,266
浜松・湖西	10,413	6,295
名古屋	10,359	2,364
地域内純生産	市町村民所得	生産／所得の率
19,218億円	21,760億円	88.3%

豊橋市15.9% 豊川市22.8% 蒲郡市33.7% 田原市▲11.1%

東三河の将来人口

市町村	平成27年	平成37年	平成47年
豊橋市	376,716	367,199	↓ 349,020
豊川市	180,741	174,615	164,586
蒲郡市	80,928	76,267	70,212
新城市	47,443	42,416	37,142
田原市	62,200	58,110	53,549
設楽町	5,185	4,104	3,235
東栄町	3,309	2,531	1,919
豊根村	1,207	953	771
東三河	757,729	726,195	↓ 680,434

東三河の後期高齢者(75以上)人口

市町村	平成27年	平成37年	平成47年
豊橋市	41,297	58,631	↑ 61,772
豊川市	20,437	29,267	29,721
蒲郡市	11,124	14,129	13,446
新城市	8,073	9,451	9,773
田原市	7,989	9,765	↑ 10,734
設楽町	1,520	↓ 1,360	1,231
東栄町	1,115	↓ 978	835
豊根村	392	↓ 336	317
東三河	91,947	123,917	↑ 127,829

東三河の将来を見通して

■課題認識

- ・住民サービスを将来にわたり確保することの難しさ
- ・地域の力をこれまで以上に高めていくことの必要性

■共通理解

- ・東三河の広域連携体制のさらなる強化
- ・地域づくりを主体的に進められる組織

■基本合意

- ・8市町村を構成団体とする東三河広域連合の設置

広域連合制度(市町村)

■基本的事項

- ・特別地方公共団体(連合長、執行機関、議会)
- ・広域連合規約(各市町村議会での議決が必要)
- ・県(国)による設置許可

■制度の特長

- ・広域計画を策定(市町村との役割分担、総合推進)
- ・県(国)から権限移譲を受けられる
- ・住民は直接請求権を持つ

東三河広域連合(仮称)の目指すところ

- 他に例を見ない総合的な広域連合として、全国に向けて情報発信すること(トップランナー)
- 東三河の発展を支える「地域力」の向上に向けて、さらに一致団結して取り組むこと(スクラム)
- 実現可能な取り組みから始め、将来に向け事務の拡充や新分野開拓に努める(成長する広域連合)

東三河広域連合の活用は、設立後に、幅広い観点から検討していくことになる

東三河広域連合(仮称)で取り組む事務事業

- 共同処理事務(設立当初から実施)
 - ・効率的な行政運営と、住民サービスの維持拡大(介護保険、滞納整理、消費生活相談など)
- 新たな広域連携事業(設立当初から内容を検討)
 - ・8市町村が一体となった新たな広域行政の展開(広域観光、広域産業、環境・エネルギーなど)
- 権限移讓事務(設立後に検討)
 - ・地方分権改革に対応した執行体制の整備(保健所、児童相談所など)

まずは、共同処理事務からスタート

事務事業	期待される効果	開始
介護保険事業	保険者を統合し保健基盤を強化することで、介護サービス水準を維持していく	30年度
滞納整理事務	専門性と必要な権限を備えた体制を整えることで、税込の更なる確保を図る	28年度
社会福祉法人の認可等	指導監査等専門性の高い体制を整えることで、法人の健全経営を確保する	27年度
障害支援区分認定審査	審査会を一括して行うことで、処理期間を短縮しサービスの早期利用を図る	27年度
消費生活相談	多重債務など専門性の高い体制を整えることで、消費の安全性を確保する	27年度
航空写真撮影	航空写真を一度に撮影することで、効率的な調達とさらなる利用拡大を図る	28年度

共同処理事務の経費負担(案)

事務事業	市町村の負担割合	豊橋市の割合
介護保険事業	高齢者人口割	45.3%
滞納整理事務	人口割	49.2%
社会福祉法人の認可等	社会福祉法人数割	51.6%
障害支援区分認定審査	認定審査件数割	49.8%
消費生活相談	人口割	49.2%
航空写真撮影	基準面積割	18.1%

広域連合での共同処理による
経費の増減見込み(10年の試算)

事務事業	東三河の増減	豊橋市の増減
介護保険事業	-3,277百万円	-1,262百万円
滞納整理事務	-277百万円	61百万円
社会福祉法人の認可等	-31百万円	4百万円
障害支援区分認定審査	-24百万円	13百万円
消費生活相談	-222百万円	-67百万円
航空写真撮影	-172百万円	-22百万円
合計	-4,003百万円	-1,274百万円

多くの皆様にご理解いただくために

■広域連合シンポジウム～広域連合の設立に向けて～

- ・7月28日(月) 午後1時～豊橋市公会堂
- ・基調講演 片山善博教授
- ・パネルディスカッション 学識者、経済人、NPO

■東三河広域連合(仮称)に関する住民説明会

- ・豊橋市 7月29日～8月8日 地区市民館(8回)
- ・他7市町村も、7月～各地区で開催

■広報とよはし、ホームページ、その他(出前講座等)

東三河広域連合（仮称）設立に向けて

■平成26年度のスケジュール（想定）



東三河はひとつ

東三河広域連合（仮称）設立に向けた合意書

（中略）

私たち東三河8市町村は、「東三河はひとつ」を合言葉に地域の力を結集し、新たな魅力と活力の創造に努め、誰もが真の豊かさを実感できる地域の実現を目指して、特別地方公共団体である「東三河広域連合（仮称）」の設立に合意します。

平成26年4月23日

（以下、8市町村長名）

於：東三河広域協議会第23回総会

平成26年度 行財政改革プラン公開プレゼンテーション

地域コミュニティによる 健康づくりと高齢者支援

平成26年7月12日(土)

健康部 健康増進課

福祉部 長寿介護課



市民とともにつくる健康づくり

健康部 健康増進課



けんとかんからのメッセージ



健康のまちづくりには
地域のみなさんの力
が必要です！！

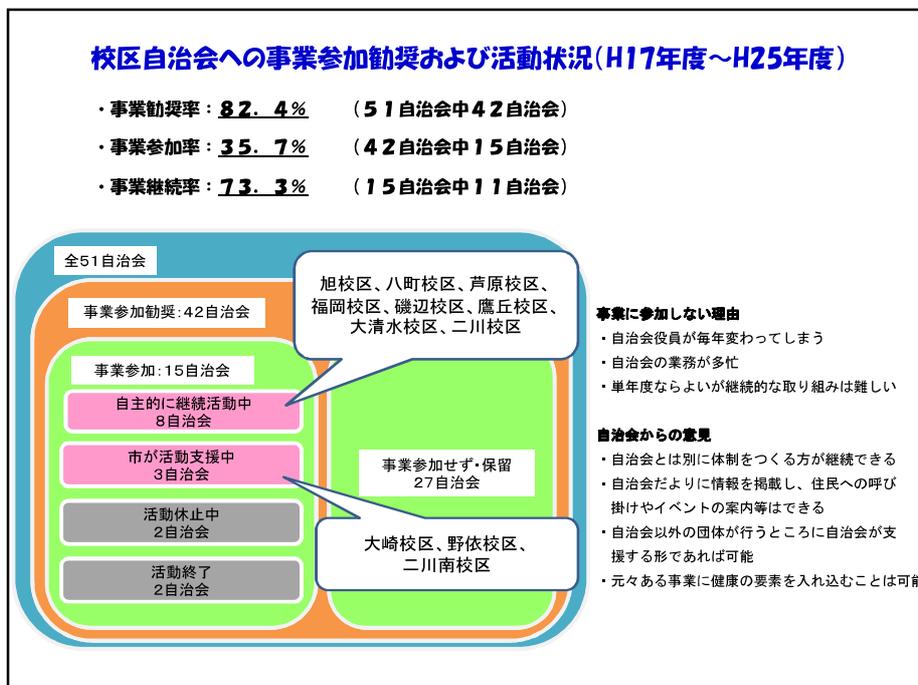
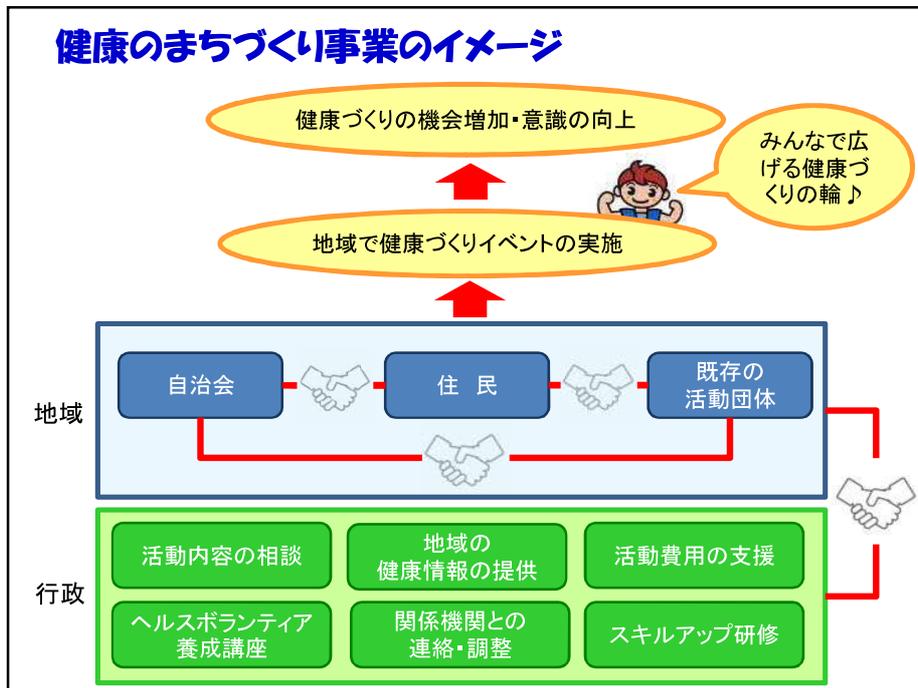
健康とよはしマスコットキャラクター
けんとかん

健康のまちづくり事業とは

地域で暮らすみなさんと行政が、
地域に根ざした健康づくりの輪を
広めていくことで地域全体が健康
になることを目指す事業です。

豊橋は糖尿病予備群の方が
多いんです！知ってました？





活動紹介 その1

団体名	あさひ健友会（旭校区）		実施回数 参加人数
活動内容	H21	ヘルスポランティア養成講座からあさひ健友会を立ち上げる	9回 41人
	H22	ウォーキングマップを作成、ウォークラリー、健康に関する講演会、調理実習等を開催	19回 197人
	H23	ウォークラリー、健康に関する講演会、調理実習等を開催	5回 95人
	H24	H23年度と同様	5回 104人
	H25	ウォークラリー、調理実習を開催	4回 88人



あさひ健友会の活動



【調理実習】
食生活改善推進員を活用し実施
回覧板で参加者を募集しました！



【ウォーキングイベント】
校区在住の方から地元の歴史を聞きながら楽しくウォーキング！



活動紹介 その2

<磯辺校区>



他の地域でも様々な活動を行っています！

【ウォーキングマップ作成】
実際に現地を歩きながら、みんなでウォーキングマップを作りました！

【ウォーキングイベント】
みんなで作ったウォーキングマップを使ってウォーキングイベントを行いました！



<福岡校区>



【健康クイズ】
校区の夏祭りでおやつに関するクイズのブースを開きました！

【健康コーナー】
校区の文化祭で健康コーナーを開き、クイズや血圧測定を行いました！

<芦原校区>



活動紹介 その4

<二川校区>



【ヘルスボランティア養成講座】
校区で取り組む健康づくりについてみんなで話し合いました！

<野依校区>



【ヘルスボランティア養成講座】
まずは自分達が挑戦！食事の基本について学びました。

継続的に活動している地域の特徴

- 積極的に健康づくり活動に取り組む住民がいる
- 住民が自治会の協力を得て活動している
例：イベントの周知、活動場所の提供
活動資金の提供等
- 自治会の中に健康づくり活動に取り組む係が作られている



活動の仕方は地域でそれぞれ。
だけど必ずキーパーソンになる
人がいるんだね！

現在の課題

- 新規参加校区が少ない
- 市の支援終了後、自主的な活動継続につながらない校区がある
- 事業の効果を判定するための指標が乏しい



課題に対するアプローチ

- 地域と一緒に健康づくりの輪を広げていただけるキーパーソンを増やします！
- キーパーソンとなる方が活動しやすい環境を整えます

<アプローチ先>

- ① 自治会
- ② 地域で活動しているまちづくりグループ
- ③ 健康づくりグループやボランティア団体
- ④ 退職後、地域のために何かしたいと考えている方

豊橋市の高齢者の概要

●平成26年4月1日現在の状況

総人口	豊橋市	378,905人
	全 国	127,140,000人
高齢者人口 (65歳以上)	豊橋市	85,143人
	全 国	32,490,000人
高齢化率	豊橋市	22.5%
	全 国	25.6%

全国数値は平成26年4月概算値
(総務省統計局人口推計より)

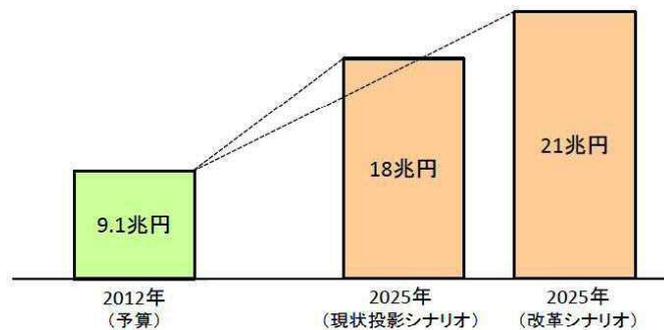
●豊橋市の高齢者の状況推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
総人口(人)	379,484	381,656	383,945	384,431	382,491	381,631	380,538	379,678
高齢者人口(人)	65,368	68,040	70,293	72,871	74,974	75,879	78,203	81,751
高齢化率(%)	17.2	17.8	18.3	19.0	19.6	19.9	20.6	21.5

※世界保健機構(WHO)や国連の定義により、高齢化率が21%を超えた社会を「超高齢社会」という。豊橋市では平成25年度に21.5%となり、超高齢社会に入った。

介護費用の見直し(国の試算)

現在約9兆円の費用が2025年には約20兆円に

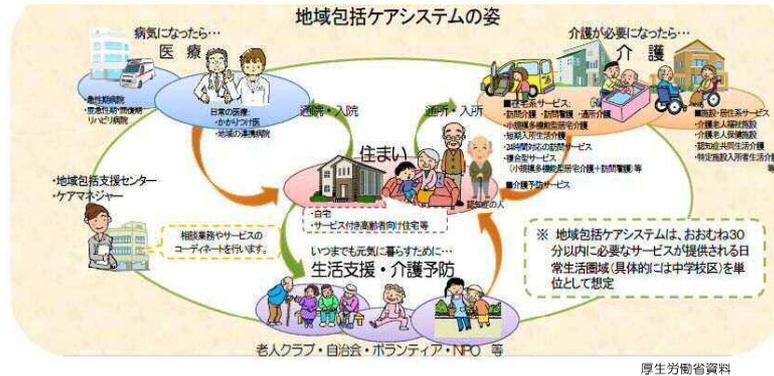


※医療の費用は41兆円(2012年)から61~62兆円程度(2025年)になる。

(資料) 社会保障に係る費用の将来推計の改定について(平成24年3月)をもとに作成
(注) 介護費用には、地域支援事業に係る費用を含む。

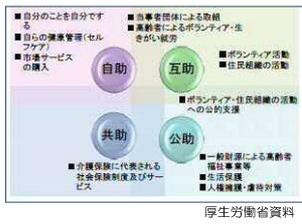
地域包括ケアシステムの構築について

- 重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう ①「住まい」②「医療」③「介護」④「介護予防」⑤「生活支援」の5つの要素が一体的に提供される仕組み。
- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、保険者である市町村等が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。



「自助・互助・共助・公助」からみた地域包括ケアシステム

- 【費用負担による区分】**
- 「公助」は税による公の負担、「共助」は介護保険などリスクを共有する仲間(被保険者)の負担であり、「自助」には「自分のことを自分でする」ことに加え、市場サービスの購入も含まれる。
 - これに対し、「互助」は相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。
- 【時代や地域による違い】**
- 2025年までは、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯がより一層増加。「自助」「互助」の概念や求められる範囲、役割が新しい形に。
 - 都市部では、強い「互助」を期待することが難しい一方、民間サービス市場が大きく「自助」によるサービス購入が可能。都市部以外の地域は、民間市場が限定的だが「互助」の役割が大。
 - 少子高齢化や財政状況から、「共助」「公助」の大幅な拡充を期待することは難しく、「自助」「互助」の果たす役割が大きくなることを意識した取組が必要。



- 市町村による新しい地域づくりの推進 (介護予防・生活支援の充実)**
- 市町村が中心となってコーディネーターと連携しつつ、生活支援サービスの充実、介護予防の推進等を図ることにより、高齢者が利用可能な多様なサービスが地域で提供される。
 - 高齢者の中には事業の担い手となる者も出現。これは介護予防にもつながる。
 - ⇒高齢者を中心とした地域の支え合い(互助)が実現。
- 厚生労働省資料
平成25年11月14日社会保障審議会介護保険部会(第52回)資料

高齢者安心生活サポート事業

平成22年4月開始

■事業の概要

独居・高齢者のみ世帯で近隣に扶養義務者がおらず、在宅での生活を継続する上で、見守り、買物支援等を必要とする高齢者に対し、生活・介護支援サポーターが支援を行う。
地域住民、民生委員等からの連絡により地域包括支援センター職員が当該高齢者を訪問し、状況を確認した上で事業の利用につなげている。



■支援内容

原則として週に1回家庭を訪問し、下記の支援を行う
(支援の詳細は、個々の話し合いで決める)

- ①生活上の簡単な支援（リモコンの電池交換等）
- ②孤独感を和らげる支援（話し相手、傾聴、安否確認等）
- ③買い物に関するつきそい支援
- ④その他（散歩の付き添い等）



利用状況

	H23	H24	H25
利用実人数（※1）	16人	16人	26人
延支援回数（※2）	566回	739回	599回

（※1）3月末時点の利用者数
（※2）4月～3月までの延べ支援回数

（写真上）
83歳の独居女性宅に週1回訪問し、話し相手等の支援をしています。

（写真下）
70歳の独居女性宅に週1回訪問し、散歩の付き添いを1時間程度行っています。

生活・介護支援サポーター養成講座

【高齢者安心生活サポート事業ボランティアの養成】

平成21年11月開始

- ・豊橋市が3法人に講座の開催を委託。
- ・介護保険制度、認知症、高齢者との関わり方等を学ぶ全6回（うち1回は介護施設での実習）の講座開催。
- ・原則として全6回を受講された方に修了証を発行。
- ・修了者の中から希望者が「生活・介護支援サポーター」として市に登録。

平成25年度の実施状況

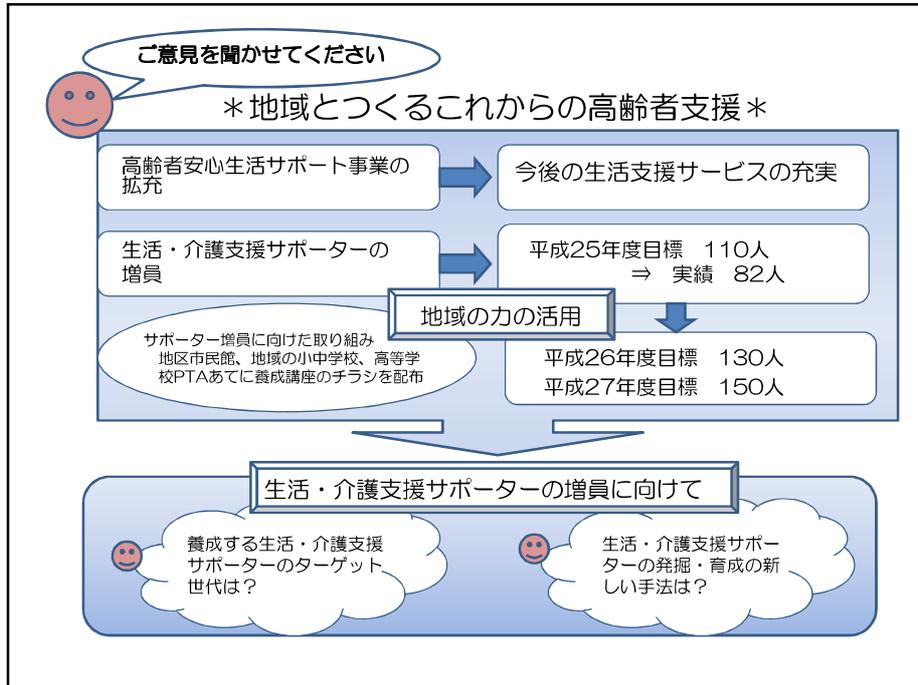
実施会場	受講者数	受講修了者数
5か所	60人	35人

平成25年度登録者数 9人

登録サポーター数（平成25年度末） 累計82人

○男女別年代別内訳

年代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男	0人	1人	7人	6人	1人	15人
女	12人	13人	27人	15人	0人	67人
合計	12人	14人	34人	21人	1人	82人





健康のまちづくり事業とは



平成17年度からモデル事業としてはじまり、21年度から現在のような「健康のまちづくり事業」が実施されています。

健康づくりは、個人で自由に取り組むものですが、一人で取り組むだけでなく、地域の人たちと一緒に楽しく取り組むことでより効果が大きくなります。

本事業は、全国的にも増えている糖尿病をはじめとする生活習慣病予防を校区単位で取り組み、やがては健康づくり活動の輪が豊橋市全体に広がることをめざします。

【実施（支援）期間は？】

応募を受けた年度から2年間とし、3年目以降も継続支援を行います。

年 次		内 容
健康の まちづくり 事業	1年目	健康のまちづくりへの理解を深める ボランティア組織の募集※を通じて中心となる スタッフによる企画・立案
	2年目	活動を通じて地域の取り組みの方向性と組織 をつくる
健康のまち づくり継続 支援事業	3年目	自主的な活動をする組織づくり
	4年目	活動を通じて多くの地域住民へPR
	5年目	主体性のある活動の確立

～これまでまちづくり事業に参加された校区～

花田、牛川、向山、大清水、旭、鷹丘、高豊、八町、磯辺、芦原、
福岡、二川、大崎、野依、二川南校区



平成25年度はこんな活動をしました！

磯辺校区はウォーキングイベントを開催しました



二川校区はウォーキングマップを作成しました



★豊橋市ってこんなまち★

○豊橋市の人口：378,905人（平成26年4月1日現在）

○高齢者（65歳以上）人口（ ）内は高齢化率

	平成21年4月1日	平成26年4月1日
豊橋市	72,871人（19.0%）	85,143人（22.5%）
愛知県	1,434,513人（19.5%）	1,687,206人（22.8%）

○豊橋市特定健康診査結果（平成24年度結果）参考値

※KDBシステムより算出したため、国への法定報告値等とは誤差あり

＜特定健康診査受診率＞

受診率は、男女とも、愛知県の平均より低い結果となっています！！

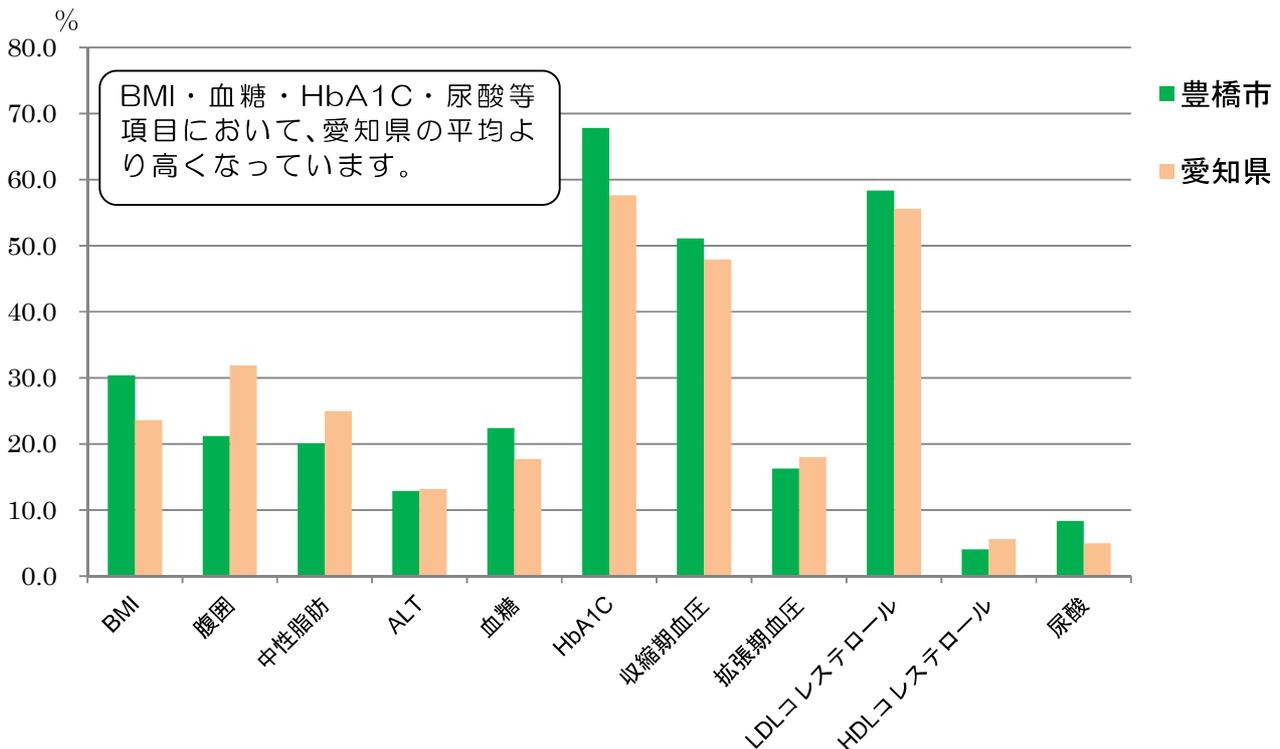
	男性			女性			全体合計
	40～64歳	65～74歳	合計	40～64歳	65～74歳	合計	
豊橋市	16.2%	34.0%	24.5%	24.6%	42.0%	32.6%	28.7%
愛知県	23.1%	45.4%	33.4%	29.3%	50.7%	39.1%	36.3%

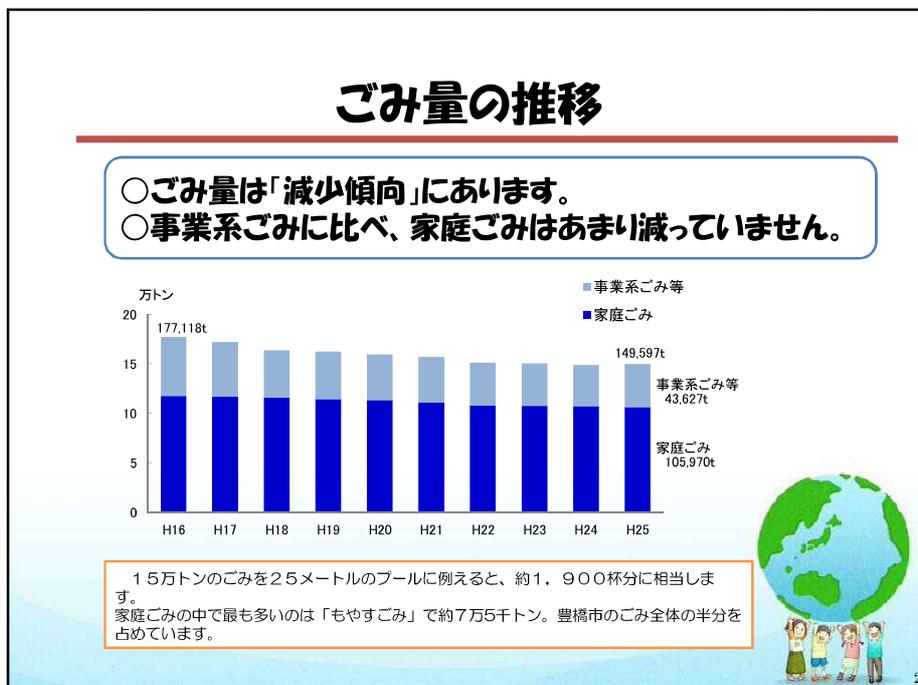
豊橋市は、メタボリックシンドローム該当者が愛知県の平均より低いことが分かります。

＜メタボリックシンドローム該当率・予備群＞

	男性（40～74歳）		女性（40～74歳）		合計	
	該当	予備群	該当	予備群	該当	予備群
豊橋市	26.2%	16.3%	8.9%	6.2%	15.9%	10.3%
愛知県	27.4%	16.2%	11.0%	5.8%	18.2%	10.4%

＜健診有所見者（基準値以上の割合）状況＞





全国・県内と比べると

○市民1人1日当たりごみ量は、とても多い状況です。



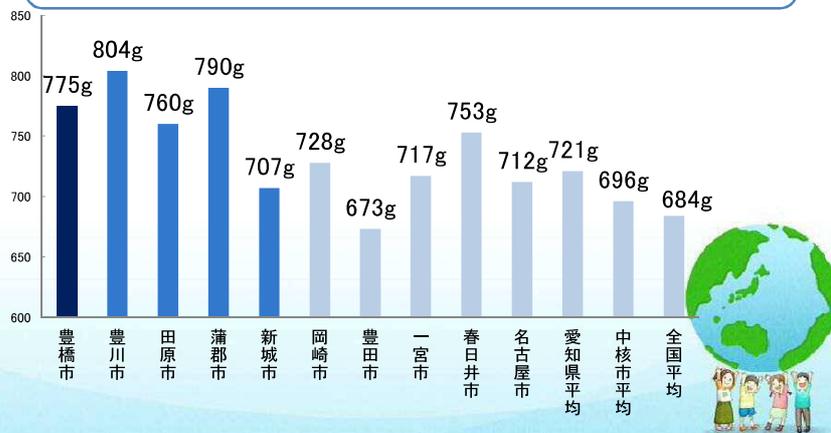
豊橋市の市民1人が1日出す家庭ごみの量は、愛知県の平均と比べると約50グラム、全国の平均と比べると約90グラム多くなっています。
豊橋市の775グラムは、ダイコン一本分の重さに相当します。



3

東三河・県内と比べると

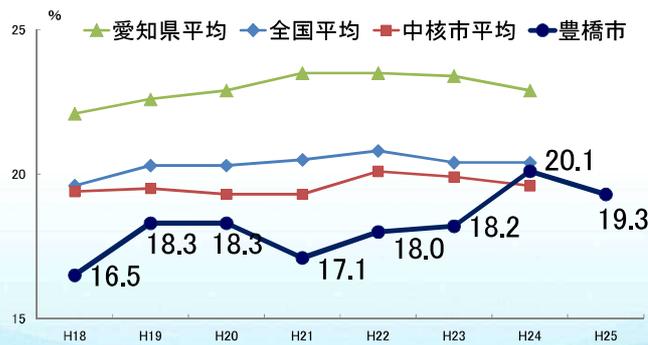
- 東三河は、全体的にごみ量が多い状況です。
- 豊橋市は、東三河では真ん中(3位)です。



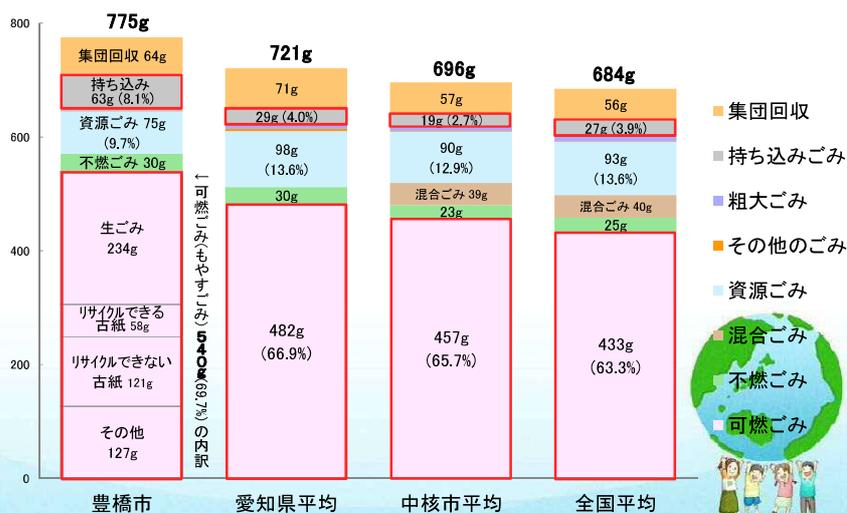
4

ごみのリサイクル率の推移と比較

- 県平均・全国平均より低い状況です。
- 県・全国より、上昇傾向が強く、改善が見られます。



なぜ豊橋のごみは多いのか？



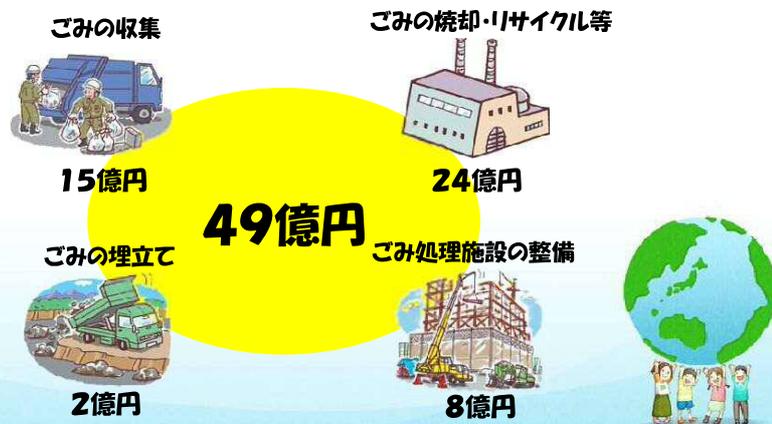
なぜ豊橋のごみは多いのか？

- 「豊橋はごみが少ない」という誤解
- 指定袋がなく、ごみを出しやすい
- ごみ処理施設へのごみの持ち込みが無料・制限もなし
- 事業系ごみの混入



ごみの処理費用

1年間で、総額49億円(平成24年度)



市民負担では？

市民1人当たり 13,000円

1袋(約5kg)のごみ処理に必要なお金



=

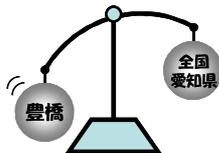


約150円



豊橋市は、こんなことで困っています…

○家庭ごみがなかなか減りません



ごみ排出量の中でも多くを占める家庭ごみ、特に「もやすごみ」の減量が思うように進んでいません。

豊橋市の家庭ごみの量は、全国や愛知県の平均より多い状態が続いています。

ごみの処理は、環境に大きな影響を与え、たくさんの費用を必要とします。

みどり豊かな豊橋を将来に引き継いでいくためにも、ごみについてもっと意識を持ってもらい、ごみ減量に取り組むことが必要です。

○資源化センターが老朽化しています

資源化センターには、3つの焼却炉がありますが、1つは使用開始から20年、残りの2つも10年が経過しており、老朽化が目立っています。

ごみ処理施設の整備には、広い土地と多くの費用を必要とするため、新しい施設を簡単に作ることはできません。



○ごみを埋める場所が少なくなっています



家庭から出る「うめるごみ」や、ごみ処理施設から出る残渣(リサイクルできない残りくず)は、最終処分場で埋立処理されています。最終処分場は、今のペースで埋立てを続けると、近い将来には一杯になってしまいますが、これ以上の用地確保はできません。

ごみ減量に向けた取組み

これまでの取組み

- レジ袋の有料化
- 資源の持ち去り禁止
- 剪定枝のリサイクル
- 小型家電のリサイクル
- ごみの現状のPR



取組みの成果

- レジ袋有料化**
辞退率**76.5%**(目標の**80%**に届かず…)
- 資源の持ち去り禁止**
資源量 **161トンUP** (リサイクル率**0.1ポイントUP**)
- 剪定枝リサイクル**
リサイクル率 **1ポイントUP**



取組みの成果

- 小型家電リサイクル
回収量 267.5トン

- ごみ現状のPR
広報とよはしでの連載「ゴミのあれこれ」
全戸へチラシ「ごみ減量8カ条」を配布
出前講座・学校訪問授業・幼児環境教育の実施
ごみ処理施設の見学会



ごみ減量・リサイクルに向けて…

これからの取組み

- 生ごみのリサイクル
- 地域資源回収の強化
- 分別方法・収集方法の見直し
- 指定袋制度

最後の手段は…

ごみの有料化



ごみ減量のため

- ごみの現状を伝えます。
- ごみ減量の方法を伝えます。
- ごみ減量のための施策を展開します。

ご清聴ありがとうございました



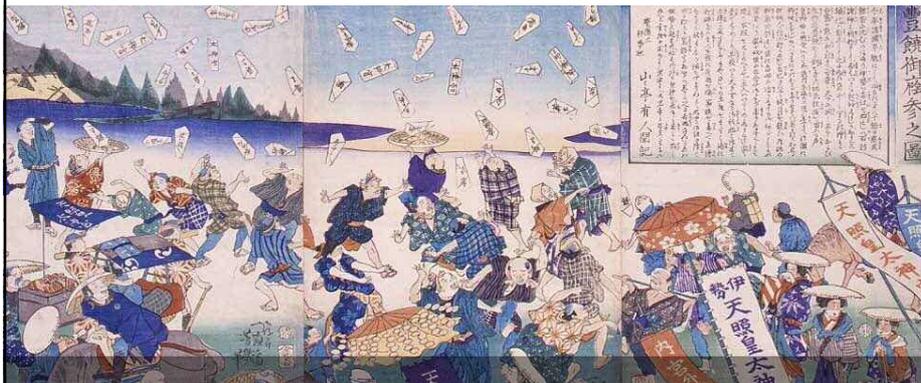
<市民参画によるシティプロモーションのあり方>

民間のシティプロモーション 情報の集約方法について



ええじゃないか豊橋

「ええじゃないか豊橋」とは？



- ・「ええじゃないか」は江戸末期に豊橋地域で発祥し全国に広まった民衆運動。
- ・「ええじゃないか豊橋」には、「いい町だね」「いいものがいっぱいあるね」と言われるまちづくりを進めたいという思いを込めています。

ええじゃないか豊橋

豊橋市がシティプロモーションに取り組んだ理由

美しく豊かな自然

恵まれた地理特性

農・商・工 バランス
の取れた産業構造

歴史と伝統ある文化

愛知県第2の都市、東三河の中心都市として
発展してきた

しかし。。。

☞ 外から見た認知度やイメージの浸透度が高くない

☞ 本市の魅力や優位性が十分に発信できていない



資料

■豊橋の認知度 [東海地方のイメージに関するアンケート調査]

・名前を知っているか

知っている→93%

・豊橋市と聞いて連想するものがあるか

連想するものがない→70%

■ブランド力 [2008地域ブランド戦略サーベイ]

・中核市41市中30位

■住みよさ [都市データパック2009]

・中核市41市中13位

■愛着度・自慢度 [H25年度市民意識調査]

・愛着がある81%(H23は79%)

・自慢できる55%(H23は52%)

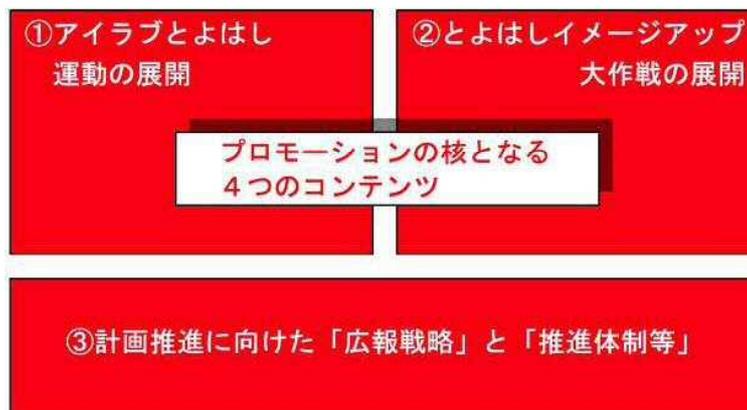


シティプロモーション活動を推進するために

- **豊橋市シティプロモーション戦略ビジョン(平成21年)**
シティプロモーションに関する本市の基本的な考え方と戦略の基本的方向を示す戦略ビジョンを策定。
- **シティプロモーション推進計画**
「ええじゃないか豊橋推進計画」(平成22年)
豊橋市シティプロモーション戦略ビジョンの実現に向けたアクションプランとして策定。
- **シティプロモーション推進室の設置(平成23年)**



ええじゃないか豊橋推進計画の構成





具体的な取組み事例

1. ええじゃないか豊橋推進会議
2. シティプロモーション事業補助金・認定事業
3. ええじゃないか豊橋伝播隊DOEE
4. 豊橋市プロモーションビデオの制作

ええじゃないか豊橋推進会議(平成23年度)

(1)発足の経緯

- ・シティプロモーション活動を効果的に実施するためには民間と一体となって活動を推進する必要があり、官民一体となった組織を作る必要があった。

(2)メンバー構成について

役職	分野	団体名
委員長	商工業	豊橋商工会議所
委員	学識経験者	愛知大学
委員	学識経験者	豊橋技術科学大学
委員	学識経験者	豊橋創造大学
委員	商工業	豊橋青年会議所
委員	農業	豊橋農業協同組合
委員	観光	豊橋観光コンベンション協会
委員	メディア	豊橋ケーブルネットワーク㈱
委員	メディア	㈱エフエム豊橋
委員	行政	豊橋市



シティプロモーション事業補助金・認定事業の募集について

○補助金の募集について

平成23年度	補助金採択件数	5件(応募11件)	
平成24年度	補助金採択件数	5件(応募9件)	認定事業1件
平成25年度	補助金採択件数	3件(応募9件)	認定事業4件

○主な採択事業

番号	採択事業	その後の展開
1	H24 とよはし妖怪ハンコ展	H25 妖怪バン祭り(緊急雇用創出事業)
2	H24 豊橋オリジナルジングル	H25～ ティーズ、FM豊橋の市政番組で活用



ええじゃないか豊橋伝播隊DOEE

若い世代に向けて豊橋の魅力を発信するためPRユニットを結成
(平成23年)

<豊橋PRユニット企画運営協議会の構成団体>

企画運営協議会 役職名	団体名
会長	豊橋観光コンベンション協会
副会長 事務局長	(株) エフエム豊橋
	豊橋農業協同組合
	豊橋ケーブルネットワーク(株)
	豊橋商工会議所
	豊橋青年会議所
監事	豊橋市
アドバイザー	菅原浩志氏(映画監督)



DOEE公式HP



DOEEラジオ



豊橋市プロモーションビデオの制作(平成25年度)

- ・監督はふるさと大使である菅原浩志氏
- ・市内各種関係者の協力により制作

<協力者、協力団体>

主な項目	団体名
手筒花火	三河伝統手筒花火連合会
鬼祭	豊橋鬼祭保存会
和太鼓	豊丘高校和太鼓部
モータープール	フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社
市電	豊橋鉄道
農産物	農家のみなさん



ここで、

プロモーションビデオ(30秒バージョン)
DOBEのパフォーマンスビデオ

をご覧ください！

目標

官と官、民と官、民と民をつなぎ、
より効果的なシティプロモーション事業を実施

そのためには

民間のシティプロモーション事業を発掘し、
他分野のコラボレーションを実現する



官民一体の組織「ええじゃないか豊橋推進会議」の在り方の検討

・情報の収集、事業への提案、人材の活用



新たな民間のシティプロモーション情報の集約方法の検討

・ええじゃないか豊橋推進会議の活用

・補助金、ビデオの活用

・民間企業と協力したプロモーション活動を実施し、つながり・すそ野を
広げる



最後にもう一つ。

他分野のコラボレーションで

アカウミガメ事業を実現しました

- 「自然分野」と「観光分野」をつなぐ
- 「旅行事業者」と「市民団体」をつなぐ
- 首都圏の親子を「豊橋」へ



 ええびいかに豊橋

さらに…

ええじゃないか豊橋CMアワードを開催します

- CMアワード応募者に
豊橋のCMを作ることで豊橋の魅力を知ってもらう
- CMアワード作品をみる方に豊橋の魅力を知っていただく
- 豊橋好きなクリエイターを発掘

